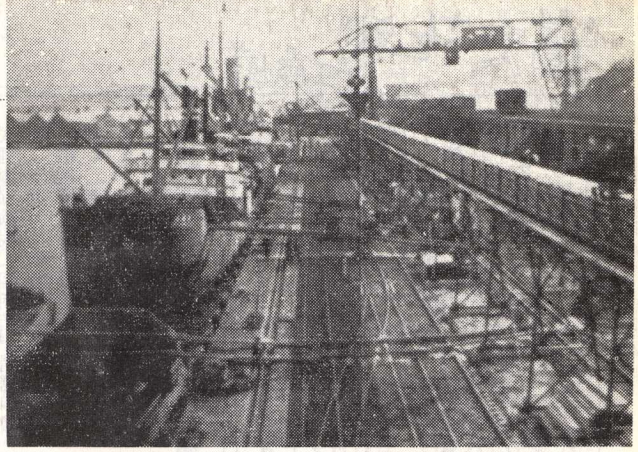
昭和48年12月号／編集・発行 留萌市企画広報室／印刷 留萌印刷株式会社



留萌市史～㉑

留萌港発展を主張した野本町長

野本治平氏

大正八年、第六代町長に就任した野本町長は、まず天塩沿岸鉄道の敷設問題解決に邁進した。

とりあえず沿岸関係町村に協力を求め、期成同盟会を組織し会長となり奔走した。

この初心成就のため寝食もとらず、その結果、自然に当局の同情も高まり、この年十月、羽幌までを第一期として着手することにきまり、十二月には鉄道会議を経て衆貴両院を通過して確定した。

また、留萌川の改修と新市街地区画設定について調査と研究をし道庁長官の諒解をうるよう努力した。

この計画は国営築営の内港が極めて貧弱であるから、町において天然の地形を利用して副港を築設することとし、留萌川の改修は原野八線に達し、二線より停車場裏を通って、築港の新川に接続し、廃川を埋立て数千戸の新市街を区画設定することにした。

総工費二百四十九万四千円で、一大事業案をたて、これを町会に付議、満場一致で可決された。

内務省の内容調査も精密峻厳をきわめたが、町長の詳細な説明でようやく承認を得た。

肝心な起債二百五十万円については当時の財界では実現不可能であろうとのことであった。

とにかく案は、内務省を通過し大蔵省に回送された。

しかし、大蔵、内務省ともに数回の訂正があったが、その都度町会は満場一致これを議決し、承認を与えた。

ただ、大蔵省も内務省同様で資金調達は不可能であると認めており、町長の重ねての説明に対しても、かえって財界硬直の状況を説くという具合であった。

この時代、弱少の留萌町が二百五十万円という大金をうるということは、常識では考えられなかったが、野本町長はこれに屈せず、その可能性を主張した。

三土参政官（後の蔵相）などの反対があったが、ついに官庁方面の了解を一応得ることができた。

さて、肝心の借り入れの対象は初め大阪、神戸方面の某富豪が引き受けるはずであったが、条件があわず不調に終り、最後に帝国生命社長福原有信の了解ある尽力で十三保険会社の共同出資がきまり貸借契約、資金調達のことも成功し、町長らは荷をおろした。

天塩の資源を留萌に集約

だいたい為政者として一事一物の仕事をなすには、整然とした理由を備え、これに対して反対説の起らないようにしなければならない。

もし、道理に背くとか理由に欠けることがあると、決して事業の実現を期することはできない。

この内港を拡張するのは、第一に天塩沿岸鉄道敷設を決定してもらうことにある。

その理由は、本鉄道は留萌を起点とすることで、その運搬する貨物は全部留萌で呑吐することになるからである。

富力を包蔵する天塩国の貫通で無限の宝庫は開発され、莫大な貨物が留萌港に集積されるため、是非とも当時の築港計画を適当に拡張する必要があった。

また、町事業としては河身を切替え、副港の築設をすることは、内港の拡張をする有力な理由になる。

町が費を投じて副港を築設する暁には、これが合理的に利用し、十分にその能率を発揮させるために内港区域を拡大して、これを副港に密着させることが必然的な要求となる。

市立図書館だより

※年末は二十八日で終ります。

※**文芸書**○近代北海道の文学―新しい精神風土の形成―（小笠原克）○文明化した人間の八つの大罪（ローレンツ・日高敏隆訳）○彼と向かい合って生きる方法（俵萌子）○詩と返逆と死（大宅歩）○喜作新道―ある北アルプス哀史―（山本茂実）○従軍慰安婦（千田夏光）○お前よ美しくあれと声がする（松原一枝）○芝桜上下（有吉佐和子）○わが六道の闇夜（水上勉）○夜の桜―花房一平心中事件（平岩弓枝）○仮面法延（和久俊三）○青葉繁れる（井上ひさし）○孔雀茶屋心中（杉本苑子）○安見隠岐の罪状（戸部新十郎）○旅する女（小松左京）○帰らざる夏（加賀乙彦）○愛子（佐藤愛子）○青春の遺書（真断伸彦）○安楽死、愛は死をみつめて（ワーテンベイカー・高橋正雄訳）○ジャツカルの日（F・フォーサイス・篠原慎訳）○リビア砂漠探検記（石毛直道）○高校放浪記（稲田耕三）

※**一般教養**・実務書○いま学校で①小学校（勉強・通信簿）（朝日新聞社）○ドゴールの最期（J・モーリアック・萩野弘巳訳）○宗教は必要か（バートランド・ラッセル・大竹勝訳）○これからの社会と教育（長洲一二）○天才の世界（湯川秀樹）○私には殺せない―赤ちゃん斡旋事件の証言―（菊田昇）○日本海時代―新しい未来―（毎日新聞社）○高校生と現代社会（加藤諦三他）○日本の思想―上着と欧化の系譜―（上山春平）○飛行機の本（佐貫亦男）○日本礼法入門（小笠原清信）○にんにく美容法（清水桂一）○和紙人形（きふじ早苗）○陶芸入門（江口滉）○新雪のスキー術（黒岩達介）

新刊書は、希望者が多いので、予約して下さい。